

ットを利用した情報発信、②商業施設への介入、③12月および2月の特例検査における広報により、即日検査実施の周知を図った。

①インターネット

同性愛者向けの情報発信をしているホームページ（運営：NPO 法人アカー、URL：<http://www.occur.or.jp/hivkensanakano.html>）において、即日検査の実施周知をはかった。さらに、ブログ、MSM向けネット掲示板やソーシャルネットワークワーキングサービス（SNS）での恒常的な情報発信を行った。

②商業施設に対する介入

名刺サイズの検査広報カードを500枚作成し、都内および近県の男性同性愛者等の利用する商業施設等に資材配布と事業のPRを行った。

③特例検査（12月・2月）における広報

同性愛者向けの総合情報サイトにおけるバナー広告の掲載、ブログ、MSM向けネット掲示板やSNSでの情報発信により周知をはかった。

2-6) 検査予約電話回線・電話相談の実施

専用の予約・相談電話を設置し、相談を実施した。受付時間は12時～20時（月～金曜日、ただし年末年始、祝祭日、研修等による休みを除く）で、NPOが予約・相談を受け持ち、623件の予約・相談を受け付けた。

2-7) 事業の効果評価

事業評価およびニーズ評価のために、受検者の実際の検査に対する満足度などの調査（形態評価）と受検者の検査に対する認識などの調査（ニーズ評価）を実施した。すべての受検者を対象としてアンケート用紙を配布し協力を依頼した。アンケート回収率は、96.2%（503名）であった。設問は合計23問で、属性に関するもの（3問）、検査を受けるきっかけ（広報・理由）（2問）、受検経験（1問）、検査ニーズ（2問）、検査の感想（4問）、形態評価（7問）、性感染症に関して（3問）、自由記述からなる。

<受検者数と陽性件数>

表10のように、予約者合計623名、うち受検者合計523名（男性339名、女性184名）であった。

また、要確認検査（判定保留）は、男性1名の合計1名であった。陽性件数は内1件である。

なお、平成23年度は、公益財団法人エイズ

予防財団の助成による2回の拡大実施を含む数値である。

表10 予約者数と受検者数

検査日	予約	受検		
	合計	合計	男	女
4月25日	65	60	35	25
6月6日	70	63	47	16
8月22日	80	69	45	24
10月24日	80	71	46	25
12月5日	140	116	77	39
2月27日	188	144	89	55
合計	623	523	339	184

（※(公財)エイズ予防財団助成による検査数を含む）

<受検者の属性>

受検者の平均年齢は、30.0歳であった（16歳～64歳）。年代は、10代2.9%（N=15）、20代52.8%（N=276）、30代34.4%（N=180）、40代8.6%（N=45）、50代1.0%（N=5）、60代以上0.2%（N=1）であった。

住所地は、中野区内が23.3%（N=122）、その他東京都内（中野区内を除く。）が54.9%（N=287）、他都道府県が20.8%（N=109）であった。また、初めての受検者は、59.5%（N=311）であった。

性的指向については、異性愛者が63.3%（N=331）、同性愛者が15.3%（N=80）、両性愛者が19.3%（N=11）であった。中野区における同性愛者の受検はさいたま市と比較しても有意に高く、また、一般的に3%～10%といわれている同性愛者の人口割合から推察しても、中野区の検査場においては同性愛者の受検が多いと結論できる。

受検につながった感染不安（複数回答）では、「性的接触」が81.8%（N=428）であった。「性的接触」のうち異性間での感染不安を挙げる男性が43.7%（N=187）、女性が33.4%（N=143名）であった。また同性間での感染不安を挙げる男性が18.2%（N=78）、女性が0.5%（N=2）であった。両性間での感染不安を挙げる男性が2.6%（N=11）、女性が0%（N=0）であった。無回答は、1.6%（N=7）であった。

さらに、性的接触が不安で受検した男性（N=276）のみでは、同性間・両性間での感染不安を挙げる男性は32.2%（N=89）であり、個別施策層であるMSMの受検が多くあった。

また、「血液による感染不安」が2.5%（N=13）、「血液製剤や輸血による感染不安」が0.2%

(N=1)、「気になる症状」を受検理由として挙げる受検者が5.0% (N=26)であった(表11)。

なお、既往歴に性感染症を挙げた受検者は22.2% (N=116)であった。

表11 受検につながった感染不安(複数回答)

	N	%
性的接触	428	81.8
血液感染	13	2.5
血液製剤・輸血	1	0.2
気になる症状	26	5.0
念のため	167	31.9

当検査室の情報をどこで知ったかを尋ねた(複数回答)ところ、「インターネット」が82.1% (N=413)であり、そのうち「中野区のホームページ」は5.8% (N=24)、「HIV検査マップ」が37.3% (N=154)であった。また、「区報」は4.6% (N=23)、「保健所への相談で聞いた」が1.6% (N=8)、「テレビ、新聞など」が1.0% (N=5)であった(表12)。

当検査室で受けることにした理由について尋ねた(複数回答)ところ、「結果が当日にわかるから(即日検査)」が51.3% (N=258)、「土日だから」が50.9% (N=256)、と「即日」「日曜」などの当検査室の特徴が挙がっていた。その他には、「感染の心配なことがあったから」が39.6% (N=199)、「気になる症状があったから」が5.6% (N=28)、「念のため」が70.4% (N=354)であった(表13)。

表12 当検査室の情報を何で知ったか(複数回答)

	N	%
インターネット	413	82.1
区報	23	4.6
保健所	8	1.6
テレビ・新聞	5	1.5

表13 当検査室で受けることにした理由(複数回答)

	度数	%
即日検査	258	51.3
土日の実施	256	50.9
感染が心配	199	39.6
気になる症状	28	5.6
念のため	354	70.4

<検査相談への評価>

検査を受けて「役立つ知識が得られたか」については73.4% (N=369)が、「不安・心配が和らいだか」については79.9% (N=402)が「はい」と回答した。検査・相談が、知識の習得や不安の軽減に役立っていることがわかった。

このほか、会場の適正、スタッフの対応等についての感想を尋ねたところ、「検査会場の場所はよいか」については89.9% (N=452)、「スタッフの対応が丁寧だったか」は95.8% (N=482)が「はい」と回答し、環境・ソフト面共に高い評価が得られた。また、「プライバシーの面で安心して検査を受けられたか」は84.7% (N=426)、「所要時間は適切だったか」は81.9% (N=412)が「はい」と回答し、肯定的な評価がなされた。

個々の対応について、「検査前の説明はわかりやすかったか」は93.6% (N=471)、「検査結果の説明や相談は十分だったか」は89.3% (N=449)、「電話受付の説明は十分か」は88.7% (N=446)が「はい」と回答した。予約・相談から、検査前説明、結果告知後相談まで、受検者に対する説明・対応は90%近い割合で高く評価された。

さらに、受検後の影響に関しては、性行動について尋ねたところ、「今後セイファーセックスを心がけようと思うか」については92.6% (N=466)が「はい」と回答した。受検が今後の行動変容の動機づけにつながる可能性がうかがえた。また、HIV検査を「パートナーにすすめる」は51.7% (N=260)、「友人、知人にすすめる」は55.3% (N=278)が「はい」と回答した。受検が検査を普及する動きにもつながることがうかがえた。

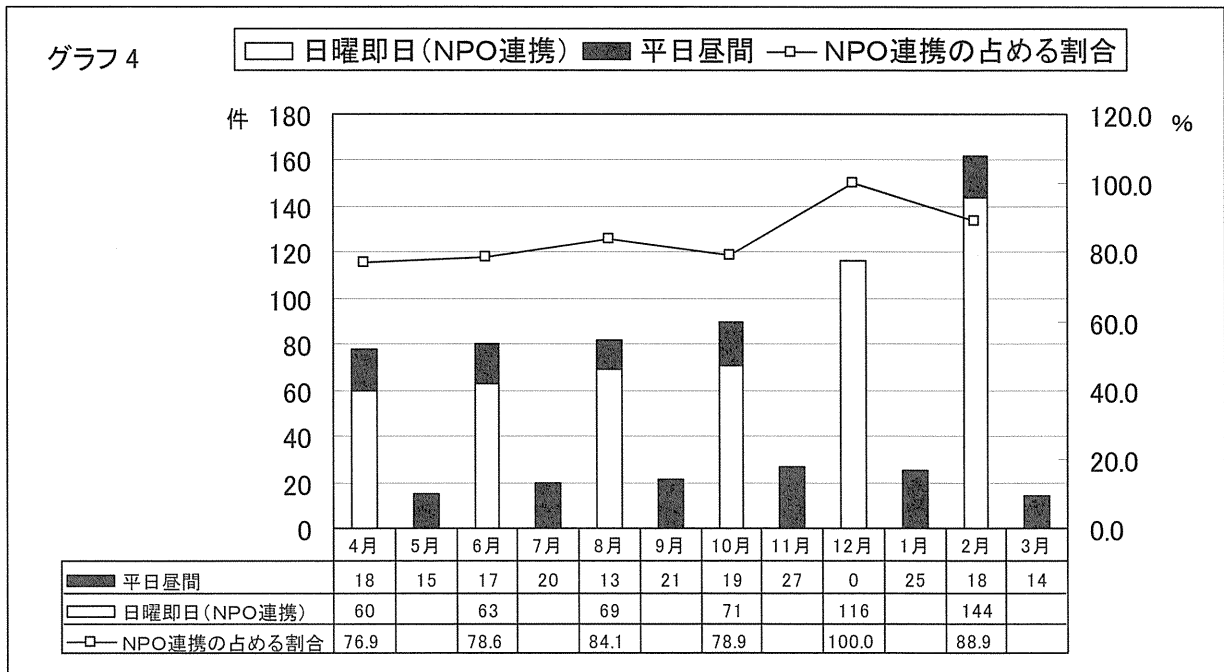
<連携事業の効果(前年度との比較・保健所実施との比較)>

中野区の平成23年度の検査数実績と前年度の検査数実績を検査の種別(平日昼間、休日即日(NPO連携))ごとに比較した。保健所での検査実施では検査数が微減したものの、NPO連携による検査は検査数の増加が見られ、中野区全体の検査数は前年度に比較して増加している(表14)。

表14 検査数実績(平成22年度・平成23年度)

	22年度	23年度
平日昼間	238	207
休日即日(NPO連携)	375	523
合計	613	730

次に、平成 23 年度の検査数の月別推移をグラフ 4 に示した。検査数のなかで NPO 連携による検査の占める割合は最大 88.9%にのぼり（12月を除く）、多くの検査数が NPO 連携による検査によって賄われている状況があった。このように、NPO 連携による検査事業を導入することで、大幅な検査数の増加が見込まれる。



D. 考察

さいたま市での NPO 連携による検査事業「さいたま市 HIV (エイズ) 即日検査・相談室」では、平成 22 年度には実際の受検者数に対し、予約問合数は最大 3 倍にまで達していた。このような状況に対し、NPO の事業努力により定員を大幅に超えて受検を受け入れていたが、それでもなお、受検ニーズに十分応えられないという課題が指摘されていた。このような状況を受け、さいたま市との連携を深めることで平成 23 年度から規模を拡大し、多くの受検希望に応えることが可能な検査場の体制を構築した。その結果、受検ニーズを 7 割以上満たすことが可能となり、地域の検査ニーズの拡大傾向に応えうる利便性の高い地域の拠点となる検査場となった。

また、平成 21 年度に開始した中野区との検査事業「中野区保健所 HIV (エイズ) 即日検査・相談」では、平成 22 年度～平成 23 年度と継続実施し事業改良に努めた。平成 23 年度は社会的に HIV への関心が高まる世界エイズデー時に拡大検査を実施し受検者の拡大に成功した。

さいたま市の平成 23 年度の検査数実績と前年度の検査数実績を検査の種別〔平日昼間、平日夜間、休日、休日即日 (NPO 連携)〕ごとに比較すると、保健所での平日昼間・休日の検査、NPO 連携による検査で検査数の増加が見られ、さいたま市全体の検査数は平成 22 年度に比較し約 1.35 倍増加した。また、中野区の保健所単体実施による平成 23 年度の検査数は微減していたが、NPO 連携による検査での検査数は増加 (前年比 1.39 倍) し、総検査数においては前年度よりも増加 (前年比 1.19 倍) しており、NPO 連携による検査事業による検査数の増加が確認できた。

さいたま市全体の検査数のなかで NPO 連携による検査事業の占める割合は、平成 22 年度が 43.8%、平成 23 年度が 60.8% と大きく拡大したことが確認できる。これらは、検査場の規模の拡大を達成したことが大きな要因となっている。また、中野区の検査数における NPO 連携による検査事業の占める割合は、平成 22 年度が 61.2%、平成 23 年度が 71.6% と大きな位置を占めており、NPO の果たす役割はさらに増加したといえる。これらのことから、NPO 連携による検査事業は地方公共団体の検査体制の充実に貢献しているといえる。

これらの検査数の拡大については、保健所単体を実施する検査事業には、社会的な情勢や他の緊急的な対応を必要とする疾病の出現など

による地方公共団体の担当者の負担増加の傾向や予算枠の減少などの要素があり、NPO が受託して実施する検査事業に比較し、事業の成果において格差が生じていることが推測され、NPO 連携による検査事業の実施は保健所単体での実施よりも、保健所内での限られた人材資源の状況や社会情勢に左右されにくい方法であるといえる。また、全国的に検査数の減少傾向がある中、保健所実施における検査数も前年度比でほぼ横ばいとなっている。このことは、NPO 連携の事業継続による検査情報の周知、NPO による広報の波及効果などの影響が推測され、今後保健所による検査と NPO 連携による検査事業との相互作用や相乗効果などの副次的な影響についても検証していく必要がある。

NPO 連携による検査事業における受検者数は、さいたま市においては、予約合計 1,187 名、受検者は 1,012 名 (男性 667 名、女性 345 名) であった。また、要確認検査 (判定保留) は、男性 3 名、女性 1 名の合計 4 名であった。陽性者については NPO が結果告知ならびに医療機関紹介を行い、その後、医療機関の受診も確認できている。

中野区においては、予約者合計 623 名、うち受検者合計 523 名 (男性 339 名、女性 184 名) であった。また、性的指向については、異性愛者が 63.3% (N=331)、同性愛者が 15.3% (N=80)、両性愛者が 19.3% (N=11) であった。中野区における同性愛者の受検はさいたま市と比較しても有意に高く、また、一般的に 3%～10% といわれている同性愛者の人口割合から推察しても、中野区の検査場においては同性愛者の受検が多くあると結論できる。要確認検査 (判定保留) は、男性 1 名の合計 1 名であった。陽性件数は内 1 件であり、陽性者については中野区保健所にて結果告知ならびに医療機関紹介を行った。告知時には NPO の相談員も同席し、心理的サポートを担当し受診促進のための介入を実施した。

年齢層はさいたま市、埼玉県、中野区ともに 20 代～30 代の受検者が多く、若年層の検査ニーズにできていた。また検査動機について「性的接触」がさいたま市で 82.6%、中野区で 81.8% であった。中野区では、「性的接触」を理由に挙げた受検者のうち異性間での感染不安を挙げる男性が 43.7%、女性が 33.4% であった。また同性間での感染不安を挙げる男性が 18.2%、女性が 0.5% であった。両性間での感染不安を挙げる男性が 2.6%、女性が 0% であった。さらに、性的接触が不安で受検した男性のみを見てみると、同性間・異性間での感染不

不安を挙げる男性は 32.2%であり、個別施策層である MSM の受検が多くあった。これらのことから、「性的接触」による感染不安という具体的なリスクを抱えている層や個別施策層である MSM 層といった受検を必要としている人々に検査機会を提供できているといえる。

検査室の情報の入手先としてはさいたま市、中野区ともに「インターネット」が多数を占めており、インターネットの広報効果は高い。また、検査を受けることにした理由については、「結果が当日に分かるから（即日検査）」、「土日だから」、「会場が駅に近いから」、「即日」「日曜」、「交通の便がよいこと」などの特徴を挙げる受検者が多かった。

検査における相談への評価としては、検査を受けて「今後の感染予防に役立つ知識が得られたか」については、さいたま市で 75.8%、中野区で 73.4%が「知識が得られた」と答え、「不安・心配が和らいだか」については、さいたま市で 85.4%、中野区で 79.9%が「和らいだ」と答えた。

スタッフの対応等については、「スタッフの対応が丁寧だった」と答えた受検者は、さいたま市 97.4%、中野区 95.8%と高い評価が得られた。さらに、個々の対応について、「検査前の説明はわかりやすかった」と答えた受検者は、さいたま市 94.4%、中野区 93.6%、「検査結果の説明や相談は十分だった」と答えた受検者は、さいたま市 94.4%、中野区 89.3%、「電話受付の説明は十分だった」と答えた受検者は、さいたま市 94.1%、中野区 88.7%であり、予約・相談から、検査前説明・相談、結果告知後相談まで NPO の担当する説明・相談の対応は 90%水準で高く評価されており、NPO の持つ相談スキルや予防啓発の経験が検査事業において活用可能であることが示された。

さらに、受検後の性行動について尋ねたところ、「今後セーフターセックスを心がけようと思うか」について「はい」と答えた受検者がさいたま市 93.6%、中野区 92.6%であり、受検が今後の行動変容の動機づけとなる予防啓発の効果を持つ相談を実施している。また、HIV 検査を「パートナーにすすめる」と答えた受検者は、さいたま市 51.6%、中野区 51.7%であり、受検者が検査を普及する動きも確認できた。このように、検査・相談を予防啓発の十分なスキルを持つ NPO のスタッフが担当することで、HIV についての知識の習得や不安の軽減が可能となった。また、検査後の性行動の変容意図が増加するなど、予防啓発効果の期待される事業となっている。

E. 結論

さいたま市と NPO の連携による「さいたま市 HIV（エイズ）即日検査・相談室」は、平成 19 年度からの連携協議を経て、平成 20 年度より事業を実施しているが、平成 23 年度は検査場の規模を大幅に拡大し、地域の拠点となる検査場として多くの受検ニーズに応えうる検査場となった。また、平成 21 年度に開始した中野区との検査事業「中野区保健所 HIV（エイズ）即日検査・相談室」は、平成 22 年度～平成 23 年度と継続した実施を達成し、更にエイズデーの時期などに拡大枠での検査を実施し、受検者の受け入れを大幅に増加させた。

平成 23 年度の検査数実績と平成 22 年度の検査数実績を保健所実施、NPO 連携実施それぞれと比較すると、保健所での検査実施は前年度と同程度、NPO 連携による検査は前年度よりも増加しており、NPO 連携による検査事業による検査数の増加が確認できた。また、地方公共団体内全体の検査数実績のなかで NPO 連携による検査事業の占める割合についても、さいたま市で平成 22 年度 43.8%のところ平成 23 年度は 60.8%に、中野区で平成 22 年度 61.2%のところ平成 23 年度は 71.6%に増加させ、さらに大きな位置を占めることができた。これらのことから、NPO 連携による検査事業は地方公共団体の検査体制の充実に貢献しているといえる。

また、全国的に検査数の減少傾向があるなか、保健所実施における検査数も前年度と比較し横ばいまたは増加を達成している。このことは、NPO 連携に事業継続による検査情報の周知、NPO による広報の波及効果などの影響が推測されるため、今後、保健所による検査と NPO 連携による検査事業との相互作用や相乗効果などの副次的な影響についても検証していく必要がある。

検査における相談は、検査・相談を予防啓発の経験を持つ NPO のスタッフが担当することで、HIV についての知識の習得や不安の軽減、予防啓発効果を併せ持つ事業となっている。また、予約・相談から、検査前説明・相談、結果告知後相談まで NPO の担当する説明・相談対応は高く評価され、NPO の持つ相談スキルや予防啓発のノウハウが検査事業において活用可能であることが示された。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

(1) 国内—論文

- 嶋田憲司、藤部荒術、太田昌二 「HIV 施策における NPO 連携と同性間対策の推進に関する研究—全国自治体調査の結果から—」 日本公衆衛生学会・日本公衆衛生雑誌 Japanese Journal of Public Health (申請中)、2011.
- 嶋田憲司、河口和也、大石敏寛 「地方公共団体—NPO 連携による個別施策層を含めた HIV 対策に関する研究」 厚生労働科学研究補助金(エイズ対策研究事業) 総括研究報告書 2011. P1-28
- 嶋田憲司、飯塚信吾、太田昌二、岡島克樹、河口和也、菅原智雄、新美広、藤部荒術 「地方公共団体—NPO 連携による HIV 対策の事業化に関する実態調査」 厚生労働科学研究補助金(エイズ対策研究事業) 分担研究報告書 2011. P79-104
- 嶋田憲司、菊地嘉、河口和也、嶋貝啓美 「地方公共団体—NPO 連携による個別施策層を含めた HIV 対策に関する研究」 厚生労働科学研究補助金(エイズ対策研究事業) 総括研究報告書 2010. P1-22
- 嶋田憲司、嶋貝啓美 「同性愛者等への有効な予防介入プログラムの普及に関する研究」 厚生労働科学研究補助金(エイズ対策研究事業) 平成 18~20 年度総合研究報告書 2009. P1-p45
- 嶋田憲司、嶋貝啓美 「同性愛者等への有効な予防介入プログラムの普及に関する研究」 厚生労働科学研究補助金(エイズ対策研究事業) 総括研究報告書 2009. P1-p18
- 嶋田憲司、飯塚信吾、絵野沢勝、太田昌二、岡島克己、河口和也、菅原智雄、苗村直美、新美広、藤部荒術 「地方公共団体への普及に関する研究」 厚生労働科学研究補助金(エイズ対策研究事業) 分担研究報告書 2009. P35-70

(2) 国内—学会発表

- 嶋田憲司、大石敏寛、河口和也、飯塚信

吾、太田昌二、藤部荒術. NPO 連携による HIV 対策に関する地方公共団体向けの質問票調査. 第 25 回日本エイズ学会学術集会示説発表、2011.

- 藤部荒術、飯塚信吾、太田昌二、嶋田憲司、大石敏寛、河口和也. STD/HIV 診療に関する性的指向に基づいた意識調査. 第 25 回日本エイズ学会学術集会口演発表、2011.
- 飯塚信吾、藤部荒術、太田昌二、嶋田憲司、大石敏寛、河口和也. 3 地域の地方公共団体と NPO の連携による HIV 検査事業の実践. 第 25 回日本エイズ学会学術集会口演発表、2011.
- 嶋田憲司、藤部荒術、太田昌二. 地方公共団体及びエイズ NPO に対する NPO 連携による HIV 対策に関する質問票調査. 第 70 回日本公衆衛生学会総会口演発表、2011.
- 藤部荒術、嶋田憲司、太田昌二. 地方公共団体と NPO の連携による HIV 対策の実践(検査事業、MSM 向け事業). 第 70 回日本公衆衛生学会総会口演発表、2011.
- 嶋田憲司、太田昌二、大石敏寛、河口和也、藤部荒術、飯塚信吾. 『ライフガード 2009-2010』~MSM 向け予防啓発事業の実施と普及. 第 24 回日本エイズ学会学術集会示説発表、2010.
- 太田昌二、嶋田憲司、河口和也、藤部荒術、大石敏寛、飯塚信吾. 個別施策層向けの HIV 対策並びに NPO 連携による HIV 対策に関する地方公共団体向けの質問票調査. 第 24 回日本エイズ学会学術集会示説発表、2010.
- 嶋田憲司、太田昌二、藤部荒術、飯塚信吾、大石敏寛、河口和也. STI/HIV 診療に関する性的指向に基づいた意識調査. 第 69 回日本公衆衛生学会総会口演発表 2010.
- 太田昌二、藤部荒術、嶋田憲司、河口和也、大石敏寛、飯塚信吾. 2 地域での地方自治体と NPO の連携による HIV 検査事業の実践. 第 69 回日本公衆衛生学会総会口演発表 2010.
- 太田昌二、飯塚信吾、絵野沢勝、河口和也、嶋田憲司、杉山雅人、嶋貝啓美、苗村直美、藤部荒術. 地方自治体と NPO 連携による検査事業化と実践~NPO の立場から~. 第 23 回日本エイズ学会学術集会口演発表、2009.

- 藤部荒術、飯塚信吾、太田昌二、河口和也、嶋田憲司、杉山雅人、鳩貝啓美。個別施策層向けのH I V対策に関する地方自治体向けの質問票調査。第23回日本エイズ学会学術集合同演発表、2009。
- 太田昌二、飯塚信吾、河口和也、杉山雅人、嶋田憲司、鳩貝啓美、藤部荒術「地方自治体とNPO連携によるHIV検査事業の実践」第68回日本公衆衛生学会総合同演発表 2009。
- 藤部荒術、太田昌二、飯塚信吾、河口和也、杉山雅人、嶋田憲司、鳩貝啓美「地方自治体とNPOの連携によるHIV対策」第68回日本公衆衛生学会総合同演発表 2009。

Kazuya Kawaguchi “Survey of 128 Local Governments in Japan on HIV/AIDS Measures for Specific Target Population” The 9th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific 2009.

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

(3) 海外一学会発表

- Kenji Shimada, Shingo Iizuka, Arashi Fujibe, Shoji Ota, Toshihiro Oishi, Kazuya Kawaguchi “Do Local Governments in Japan Work in Cooperation with NGOs, and Work for Vulnerable Populations?” The 10th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific 2011.
- Shingo Iizuka, Kenji Shimada, Arashi Fujibe, Shoji Ota, Toshihiro Oishi, Kazuya Kawaguchi “Creating Behavior Change through Workshop for MSM: LIFEGUARD” The 10th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific 2011.
- Shingo Iizuka, Kenji Shimada, Shoji Ota, Arashi Fujibe, Toshihiro Oishi, Hideo Edo, Kazuya Kawaguchi “LIFEGUARD: HIV prevention campaign for gay men through safer sex workshop at gay bars in Japan-” XVIII International AIDS Conference 2010
- Shoji Ota, Kenji Shimada, Arashi Fujibe, Hiromi Hatogai, Shingo Izuka, Masato Sugiyama “Local government-AIDS NGO’ Collaboration Practices in Japan for MSM Program and HIV Testing” The 9th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific 2009.
- Kenji Shimada, Hiromi Hatogai, Arashi Fujibe, Shoji Ota, Keizo Miyachika, Hiroshi Niimi, Masao Kashiwazaki,

HIV即日検査を受ける方へ

待ち時間に、枠内のご記入をお願いします。
この質問票は、検査判定に必要な項目と、この後検査前の説明や相談の際に参考とさせていただきます。可能な範囲でご記入をお願いします。

(当てはまる□にレ印、当てはまる()に記入をしてください)

あなたについて	年齢	歳	性別	<input type="checkbox"/> 男	<input type="checkbox"/> 女
	住所	<input type="checkbox"/> さいたま市内	<input type="checkbox"/> その他埼玉県内	<input type="checkbox"/> 県外	

1. 検査について

・過去にHIV検査を受けたことがありますか？

ない (初めて受ける)

ある
→ 今回で()回目くらい

2. 今回何がご心配で検査を受けますか？

性的接触による感染の心配 → 相手は？ 男性 女性 両方

血液による感染の心配 → 最後に心配な事があった日から？

血液製剤、輸血による感染の心配 1か月未満 その他

母子感染の心配 1か月以上

気になる症状がある 2か月以上

その他 () 3ヶ月以上～1年位

念のため(特に心配なことはない) 1年以上～

・感染予防のための相談を希望しますか？ 希望する 希望しない

3. 既往(今までに以下のようなことがありましたか？)

・ コウケンビョウ リウマチ、膠原病などの自己免疫疾患にかかったことがありますか？ 有 無

・ 輸血を受けたことがありますか？ 有 無

・ 性感染症にかかったことがありますか？ 有 無

有の方 → 梅毒 クラミジア その他()

・ (女性のみ)妊娠している又はしている可能性はありますか？ 有 無

受検番号: <<番号>>

さいたま市 HIV(エイズ)即日検査相談室・アンケート

このアンケートは、当検査室を改善していくためにおこなっているものです。可能な範囲で結構ですので、どうぞご協力のほど、お願いいたします。

■ あなたについて教えてください。

- 1. 性別 □ 男 □ 女
2. 年齢 _____ 歳
3. お住まいはどちらですか? □さいたま市内 □埼玉県内 □県外

■ 検査を受けるきっかけや、検査の経験について教えてください。

- 4. この即日検査のことはどこでお知りになりましたか? (複数回答可)
□ ①インターネット(あてはまるものに○をしてください)
(さいたま市ホームページ、HIV 検査マップ
その他のサイト(どちらですか?→))
□ ②市報
□ ③保健所への相談(電話相談、来所相談)
□ ④ポケットティッシュ
□ ⑤ちらし・リーフレット
□ ⑥テレビ・新聞など
(あてはまるものに○をしてください)
(テレビ・ラジオ・新聞・雑誌)
□ ⑦NPO(相談、イベント)
□ ⑧その他()

- 5. 今回検査を受けることにした理由は何でしょうか? (複数回答可)
□ ①会場が駅に近いから
□ ②土日だから
□ ③感染の心配なことがあったから
□ ④気になる症状があったから
□ ⑤結果が当日にわかるから(即日検査)
□ ⑥念のため
□ ⑦その他()

- 6. これまでにエイズ検査を受けたことがありますか?
□ ない
□ ある
⇒どこで受けましたか? (複数回答可)
□ ①病院・医院
□ ②さいたま市保健所の日中の検査
□ ③さいたま市保健所の夜間の検査
□ ④県内のその他の保健所での検査
□ ⑤都内の保健所や検査機関
□ ⑥その他()

■ 検査に対してのご希望をお聞かせください。

- 7. 次のことは、エイズ検査を受けるきっかけになりますか? (複数回答可)
□ ①土・日曜の検査
□ ②平日夜間の検査
□ ③即日検査
□ ④無料の検査
□ ⑤匿名の検査
□ ⑥予約なしの検査
□ ⑦プライバシーが守られること
□ ⑧相談や質問もできること
□ ⑨性感染症の検査も同時に受けられること
8. エイズ検査を受けるときに知りたいと思う情報はどれですか? (複数回答可)
□ ①性感染症やエイズ感染の予防
□ ②早期発見のメリット
□ ③最新のエイズ治療
□ ④感染後のサポートや利用できる情報
□ ⑤性感染症等の医療機関
□ ⑥その他()
□ ⑦情報は不要

■ 今回検査を受けてみて、いかがだったでしょうか?

- 9. 役に立つ知識が得られましたか?
□ はい
→(具体的には:)
□ いいえ
→(具体的には:)
□ どちらともいえない
10. エイズに関する不安・心配は和らぎましたか?
□ はい
□ いいえ
□ どちらともいえない
11. 今後セーフセックス(予防をした性行為)を心がけようと思われましたか?
□ はい
□ いいえ
□ どちらともいえない

◆恐れ入りますが裏面もお願いします◆

12. HIV 検査をすすめますか？(複数回答可)
- ①パートナーにすすめる
 - ②友人、知人にすすめる
 - ③その他(どなた?→)にすすめる
 - ④すすめない
 - ⑤どちらともいえない

■ この検査会場に対する感想をお聞かせください。

13. この検査会場の場所はよいですか？
- はい
 - いいえ
→(..... 駅 の近くが良い)
 - どちらともいえない
14. プライバシーの面で安心して検査を受けられましたか？
- はい
 - いいえ
 - どちらともいえない
15. スタッフの対応は丁寧だったでしょうか？
- はい
 - いいえ
 - どちらともいえない
16. 所要時間は適切でしたか？
- はい
 - いいえ
 - どちらともいえない
17. 検査前の説明はわかりやすかったですか？
- はい
 - いいえ
 - どちらともいえない
18. 検査結果の説明や相談は十分でしたか？
- はい
 - いいえ
 - どちらともいえない
19. 電話受付時の説明は十分でしたか？
- はい
 - いいえ
 - どちらともいえない

■ 医療機関の受診に関するご意見をお聞かせください。

20. 性感染症や HIV について心配なときに受診できる医療機関を知っていますか？
- ①はい → (病院名:)
 - ②いいえ
21. 性感染症や HIV で受診する際に重視する点は何でしょうか？(複数回答可)
- ①プライバシー ②性行動への理解
 - ③治療経験の豊富さ ④評判・クチコミ
 - ⑤医師の説明のわかりやすさ
 - ⑥診療時間(夜間・休日など)
 - ⑦HIV 感染者への理解
 - ⑧同性愛・性同一性障害などへの理解
 - ⑨金額 ⑩交通の便
 - ⑪予約制の有無 ⑫待ち時間
 - ⑬その他(.....)
22. 性感染症や HIV について心配なときにどのような行動をとりますか？
- ①ネットで調べる ②本で調べる
 - ③友人・知人からの意見を聞く
 - ④行政の相談窓口を利用する
 - ⑤NPO の相談・情報を利用する
 - ⑥その他(.....)

23. その他ご意見等

.....

.....

.....

.....

.....

～ご協力ありがとうございました～

このアンケートは、当検査室を利用された方に、検査に関するニーズや現状をお伺いし、検査・相談の方法を改善していくためにおこなっているものです。本アンケートは匿名で、結果は統計的に処理され個人が特定されるような用い方は一切いたしません。なお、統計的に処理したあとの結果は、この事業の報告等に使用させていただきます。

<このアンケートのお問い合わせ先>
さいたま市 HIV(エイズ) 即日検査・相談室
運 営: NPO 法人アカー
電 話: 03-6382-6180
メー ル: occur@kt.rim.or.jp

参考資料: 保健所等における HIV 即日検査のガイドライン第 2 版、さいたま市保健所問診票、神奈川県 HIV 即日検査アンケート、エイズ予防財団アンケート

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

著者氏名	書籍名	出版社名	出版地	出版年
岡島克樹・風間孝・ <u>河口和也</u> 訳（アルトマン、デニス著）	ゲイリベレーション—抑圧と解放	岩波書店	東京	2010
<u>河口和也</u> ・風間孝 著	異性愛と同性愛	岩波書店	東京	2010
<u>河口和也</u>	「クィアの可視化をめぐる諸問題—テレビ番組を事例として—」	『論叢クィア』第3号 pp.24-37 2010	東京	2010

平成23年度 厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策研究事業

地方公共団体－NPO連携による個別施策層を含めた
HIV対策に関する研究

平成 24(2012)年 3月 31日 発行

研究代表者 嶋田 憲司

特定非営利活動法人 動くゲイとレズビアンのかい

164-0012 東京都中野区本町 6-12-11 石川ビル 2F

TEL: 03-3383-5556 FAX: 03-3229-7880

E-mail: occur@kt.rim.or.jp URL: <http://www.occur.or.jp>

厳禁無断複製転載© 特定非営利活動法人 動くゲイとレズビアンのかい

